

令和 5 年 6 月の解説（府県天気予報）

【6 月の天候状況】

上旬は、北日本では、天気は数日の周期で変化しましたが、低気圧の影響でまとまった雨の降った日があったため、降水量は北日本日本海側と北日本太平洋側でかなり多く、日照時間は北日本日本海側で少なくなりました。東日本と西日本では、梅雨前線の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かったため、日照時間は西日本日本海側と東・西日本太平洋側で少なくなりました。また、関東甲信地方では、8 日ごろに梅雨入りしたとみられます。前線に向かって台風第 2 号から暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、太平洋側では線状降水帯が発生して 2 日から 3 日にかけて記録的な大雨となった所もあったため、降水量は東・西日本日本海側と東・西日本太平洋側でかなり多くなりました。特に、東日本太平洋側では降水量平年比が 600%となり、1946 年の統計開始以降、6 月上旬として 1 位の多雨となりました。沖縄・奄美では、旬のはじめは台風第 2 号、旬の終わりは梅雨前線の影響で曇りや雨となりましたが、旬の中頃は高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、日照時間は多くなりました。気温は、北日本と東日本では暖かい空気が流れ込みやすく、平年を上回る日が多かったため、平均気温は高くなりました。一方、西日本では旬の中頃以降に冷涼な空気の影響を受けて、平年を下回る日がありました。

中旬は、北日本、東日本、西日本では、旬の前半は北日本は気圧の谷の影響を受けやすく、東日本と西日本は梅雨前線や湿った空気の影響を受けやすかったため、曇りや雨の日が多くなりましたが、旬の後半は高気圧に覆われやすく、この時期としては晴れた日が多くなりました。このため、日照時間は北・西日本日本海側と北・東日本太平洋側で多く、降水量は北・西日本日本海側と東・西日本太平洋側で少なくなりました。なお、北陸地方、東北南部、東北北部では 11 日ごろに梅雨入りしたとみられます。平均気温は、北日本を中心に暖かい空気に覆われ平年を上回る日が多かったため、北日本でかなり高く、東日本と西日本で高くなりました。特に、北日本の平均気温平年差は+2.2℃となり、1946 年の統計開始以降、6 月中旬として 1 位タイの高温となりました。一方、沖縄・奄美では、梅雨前線や南からの湿った空気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多くなりました。旬の終わりは奄美地方で線状降水帯が発生し、大雨となった所もありました。このため、平均気温は低く、日照時間はかなり少なく、降水量は多くなりました。

下旬は、北日本、東日本、西日本では、旬の前半は高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、旬の後半は北日本は気圧の谷の影響を受けやすく、東日本と西日本は梅雨前線や湿った空気の影響を受けやすかったため日本海側を中心に曇りや雨の日が多く、30 日は西日本で大雨となった所もありました。このため、降水量は北・東・西日本日本海側で多く、日照時間は西日本日本海側で少なくなりました。一方、東・西日本太平洋側ではまとまった降水とならなかった所が多く、降水量は少なくなりました。沖縄・奄美では、旬の前半は梅雨前線や南からの湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなりましたが、旬の後半は梅雨前線が本州付近に北上し、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。沖縄地方では 25 日ごろに、奄美地方では 26 日ごろに梅雨明けしたとみられます。気温は、北日本を中心に暖かい空気に覆われやすかったため、平均気温は北日本でかなり高く、東日本と西日本で高くなりました。一方、旬の前半に奄美地方を中心に曇りや雨の日が多かった沖縄・奄美では低くなりました。

【6月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より2ポイント高い85%で、明後日予報は例年値より3ポイント高い80%でした。地方別の適中率では、明日予報は、東北地方と九州南部では例年値を下回り、中国・四国・九州北部地方で例年値と同じであった以外は、各地方で例年値を上回りました。また、明後日予報は、北海道・中国・沖縄で例年値を下回り、四国・九州南部で例年値と同じであった以外は、各地方で例年値を上回りました。

同じく17時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.4℃小さい1.5℃で、九州南部で例年値と同じだった以外はすべての地方で例年値を下回りました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.3℃小さい0.9℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【8月の天気予報の利用にあたって】

8月は年間を通して最も気温が高く、真夏日（日最高気温が30℃以上の日）が最も多く、猛暑日（日最高気温が35℃以上の日）となることもあります。熱中症対策の情報として、翌日又は当日の暑さ指数（WBGT：湿球黒球温度）が33以上になることが予測される場合に「熱中症警戒アラート」が発表されます。熱中症予防など、健康管理にご活用ください。気温が上昇すると大気の状態が不安定となり、局地的な大雨となることがあります。天気予報とともに最新の気象情報や注意報、警報の発表状況にも留意してください。